

平成 25 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	神戸防災技術者の会（略称K-T E C）
活動テーマ	東日本大震災被災市町村の復興事業担当者に対する支援活動



参加自治体から被災と復興状況の報告



野田北部のまちづくり見学と研修



六甲道北地区の復興区画整理事業を学ぶ



復興公営住宅における被災者ケアの実態ヒアリング

1. 目的—阪神・淡路大震災の復興に携わった神戸市職員及びその退職者で構成するK-T E Cが、その体験を伝承することにより、東日本大震災の住民の一日も早い生活再建の支援を行う。
2. 動機—被災直後からK-T E Cは神戸市と連携を取り、メンバーの多くが派遣され、また後方支援を行ってきた。昨年度メンバー16名は被災地に入り、被災自治体職員や被災住民代表者と意見交換を行い、支援のあり方について研究した。その結果自治体職員に神戸の復興の過程を伝承する必要性を感じた。
3. 活動の実施方法や内容—K-T E Cは被災 10 自治体から 13 名の職員を 5 日間神戸に招聘して、参加者の要望を加味したカリキュラムを作成してセミナーを開催した。その内容はK-T E Cメンバーとの復興の過程やその間の問題点の意見交換と解決策の議論、被災住民の代表者や市民と行政の中間組織として活躍したまちづくりコンサルタントと意見交換と復興事業の完了現地視察の場を提供した。また経済復興や復興住宅のケア、高台造成地や高盛土の実績など今後被災地で展開する事業の視察も含め実施した。
4. 活動で得られた成果—神戸と東日本の被災地は被害内容、住民意識、行政実績など大きく異なり、大型事業の経験を持つ技術者も少数の中にあって、復興を行う過程を知り、復興成ったまちを視察することにより、今後被災地で展開する事業の方向性や予測しなければならない課題などの解決策に対してヒントを示唆するセミナーであり、参加者間の情報網の形成により連絡をしながら共に歩む方向性が打ち出されるなど、自治体職員のスキルアップに寄与したと評価している。